

## 実践事例発表レジュメ

研修・研究事業名	行政評価・事業評価の実際
実践事例名（テーマ）	上士幌町における社会教育中期計画の策定と評価活動
事業主体（実施機関）	上士幌町社会教育委員の会議
連携・協力機関等	
発表者	上士幌町教育委員会生涯学習課 社会教育主事（主任） 牧野 祐也

期日 27年 8月 10日

## 内 容

社会教育法は、第17条において社会教育委員の職務を規定しているが、その第1項において、社会教育に関する諸計画の立案を定めている。

一方、多くの行政計画は、その策定には予算（労力）をかけても、その検証をしっかりと行ってこなかったという現状がある。また、専門業者に策定業務の外部委託を行い、地域住民の実態に寄り添う内容になっていないケースも多々見られる。しかし社会教育計画については、法的にも根拠がある通り、社会教育委員が主体性をもって策定していくことが何よりも大切となる。

社会教育委員は、地域の社会教育実践者である。しかし、2年間を任期とする社会教育委員は、自らの実践が社会教育実践であるということ、さらに自らが実践者であるという意識が希薄な委員も多いのが現状である。そこで上士幌町では、社会教育計画を策定する営み自体を、「社会教育実践」として位置付け、その取り組みを通して、実践者たる社会教育委員が、町の社会教育行政のことを考え、行政と実践者がともに手を携えていく機会にしようと試みている。

本実践報告では、上士幌町において策定した『上士幌町第7期社会教育中期計画』の策定及び評価活動の内容について紹介し、「計画の策定・評価」の取り組みを、いかに「社会教育実践化」したかについて報告する。

---

〔参考文献〕 特になし